知らないと損をする！

現代社会の基礎サバイバル知識

vol.12

今回のテーマ

自然災害

地震、津波、雷、ゲリラ豪雨…これらの自然災害に遭遇したとき、あなたは適切に行動できる自信がある？

自然災害に遭遇した際、慌てて（または油断して）誤った行動をとってしまう人は少なくない。そこで、（財）市民防災研究所の細川顕司事務局長に、判断を誤りがちなケースとより適切な対応の仕方を聞いた。

①ビル街で地震が来たら新しいビルの中へ

ビル街の地震の際、まず警戒すべきは落下物。大きな揺れがあると、人は建物の中から外へ出る傾向があるが、耐震性に優れた新しいビルが近くにあれば中に飛び込んだほうが危険は少ない。古いビルが多い通りは割れたガラスが降り注ぐ可能性もある。

②地下で地震が来たら慌てて地上に出ない

地下街や地下道、地下鉄の構内などは揺れにより崩れる危険は小さい。火災を警戒して出入口付近まで移動することは必要だが、慌てて外に出てもより危険なだけだ。

③調理中に地震が来たらコンロから離れる

都市ガスもプロパンガスも、通常大きな揺れを感じたら自動的に止まる対策が施されている。すぐにその場を離れて、熱湯や油でやけどをする危険を回避するべき。

④津波から避難する際は徒歩で

車は渋滞に巻き込まれる危険が高い。徒歩での避難を原則として家族と避難場所や避難経路について話し合っておこう。

⑤雷の際は屋外に止まらず最寄りの建物へ

広い公園などで雷に遭遇したら、最寄りの建物を目指してすぐに移動するべき。「高い木の下に避難するといい」とも言われるが、その結果、被害にあった例もある。屋外にいる以上、落雷のリスクはあると認識しよう。

⑥洪水の際の最大の敵は油断

ゲリラ豪雨などによる洪水の際の避難勧告は実は軽視されがち。洪水が起きやすい地域の場合、「前回の洪水でもウチは大丈夫だった」と判断する人が多いが、数年経てば新しい道路や建物ができて周囲の水の流れが変わっていることもある。油断は厳禁だ。

＊　＊　＊

ここで挙げた例は、過去の事例から判断して、より危険を回避できる可能性が高い対応策にすぎず、安全を保証するものではない。細川さんは「災害の対策に100％の正解はありえない。大切なのは臨機応変さ」と指摘する。瞬時に「何が危険なのか」を自分自身で判断できるよう、日頃から正しい知識を身につけることを心がけよう。